

住民記録・印鑑登録等システム標準化移行対応業務委託プロポーザル評価基準

評価基準一覧表 A (一次審査)

評価項目		評価の観点	配点	評価	係数	評点
事業者の能力	同種・類似業務の実績	同種・類似業務の実績について、3段階で評価 A. 実績が5件以上 B. 実績が2件から4件 C. 実績が1件以下	5			
	技術者の資格状況	配置できる技術者の資格について、3段階で評価 A. 受注者の資格に掲げる資格者を配置かつ上級クラウド資格者を配置（支援体制を構築している場合を含む） B. 受注者の資格に掲げる資格者を配置又は上級クラウド資格者を配置（支援体制を構築している場合を含む） C. どちらも配置や支援体制もない	5			
担当者の能力	担当者の実務経験（担当者平均）	実務経験について、2段階で評価 A. 実務経験が4年以上 C. 実務経験が4年未満	4			
	同種・類似業務の実績（担当者平均）	同種・類似業務の実績について、3段階で評価 A. 実績が5件以上 B. 実績が2件から4件 C. 実績が1件以下	4			
	手持ち業務量（担当者平均）	手持ち業務と本業務との重複程度について、3段階で評価 A. 手持ち業務の件数が2件以下 B. 手持ち業務の件数が3件又は4件 C. 手持ち業務の件数が5件以上	2			
評価基準表（A）小計			20			
提案金額（D）			30			

- 注記 1 評価係数はA=1.0、B=0.6、C=0.2とする。ただし、技術者の資格状況はC=0とする。
 2 同種・類似業務とは、住民記録・印鑑登録等システム標準化移行対応業務委託プロポーザル実施要領に掲げる業務をいう。
 3 手持ち業務とは、契約金額100万円以上の業務をいう。
 4 事務局で審査を行い、評価基準表（A）及び提案金額（D）の評点を一意に定める。

【提案金額の評価係数】 上限金額からダウンリカバリー経費（見積りの平均）を差し引いた設定金額と比較する。

評価係数	評価基準
A（非常に満足できる）=1.0	設定金額▲20%以上
B（おおむね満足できる）=0.8	設定金額▲10%以上 20%未満
C（平均的）=0.6	設定金額▲5%以上 10%未満
D（やや不満足である）=0.4	設定金額▲5%未満
E（不満足である）=0.2	設定金額と同額

住民記録・印鑑登録等システム標準化移行対応業務委託プロポーザル評価基準

評価基準一覧表B（第二次審査）

評価項目	評価の観点	配点	評価	係数	評点
システム評価	システム操作性を4段階で評価 A. 初心者でも簡単に操作ができそう B. 研修を受ければ操作ができそう C. 研修を受けても覚えるには時間がかかりそう D. 初心者には難しそう	10			
	画面のわかりやすさを4段階で評価 A. 初心者でも目標画面を見つけやすい B. 研修を受ければ見つけることができそう C. 研修を受けても覚えるには時間がかかりそう D. 初心者では目標画面を見つけられない	10			
評価基準表（B）小計		20			

注記 1 評価係数はA=1.0、B=0.6、C=0.4、D=0.2とする。

2 市民課職員で審査を行い、市民課として評価基準表（B）の評点を一意に定める。

住民記録・印鑑登録等システム標準化移行対応業務委託プロポーザル評価基準

評価基準一覧表C（第三次審査）

評価項目	評価の観点	配点	評価	係数	評点
本業務の背景と目的に関する理解	地方公共団体情報システムの標準化に関する法律に定める標準準拠システムについて、国の動向や本市の特性、目的を正しく理解している。	3			
システム化方針、システムの概要・コンセプト・特徴・優位性、構築業者と開発業者の関係性等	職員が分かりやすい資料でコンセプトや優位性について説明し、説得力があるか。	3			
ガバメントクラウド上の構築方式、システム構成。各方式のメリット・デメリット比較、選択理由、デメリット解消に向けた取組み	職員が分かりやすい資料で構築方式やシステム構成を説明し、比較や選択理由について説得力があり、積極的に取り組む意欲を感じられるか	2			
リスク管理、職員負担軽減の観点から各工程のスケジュール	各工程のスケジュールが期間や職員負担の面から無理なく作成されているか。	3			
移行時期や職員負担軽減など文字要件に関する方針	システム移行後の文字の取り扱いについても職員負担軽減が考慮されているか。	2			
サービスレベル（稼働率 99.5%）を向上させる取組み、ダウンリカバリーの考え方	サービスレベルを向上させる取組みが具体的に説明されているか。ダウンリカバリーの考え方について納得できる説明であったか。	3			
プロジェクトの進捗管理、課題管理、リスク管理、品質管理の運営方法	プロジェクト管理について、それぞれの運営方法が具体的に提案されているか。	3			

評価項目	評価の観点	配点	評価	係数	評点
データ移行の品質保証、データ移行時に発生する不備データの対応方法	データ移行に関して安心安全であると思える説明であったか。	3			
各種研修の内容、実施スケジュール、実施体制、工夫点	管理者、担当者、会計年度任用職員それぞれに配慮された研修の提案であったか。	2			
想定利用料、想定運用支援委託料	本提案金額以外で必要となる経費の説明が納得できる説明であったか。	2			
追加提案内容	本市の特性にあわせた取り組みを検討していくための創意工夫がなされた独自の提案となっている。	2			
	提案事業者の強みや独創的なポイントが示された提案となっている。	2			
評価基準表（C）小計		30			
評価基準表（A）※事務局で算出した点数		20			
評価基準表（B）※市民課で算出した点数		20			
提案金額（D）※事務局で算出した点数		30			
評点合計（評価基準表A小計+評価基準表B小計+評価基準表C小計+提案金額D）		100			

- 注記 1 評価係数はA（非常に満足できる）=1.0、B（おおむね満足できる）=0.8、
C（平均的）=0.6、D（やや不満足である）=0.4、E（不満足である）=0.2とする。
- 2 配点に評価係数をかけることによって算出された評点は、小数点以下を切捨てとする。